

埼玉親善大使・フィンドレー大学奨学生レポート⑤（12月） 「寒波の冬」

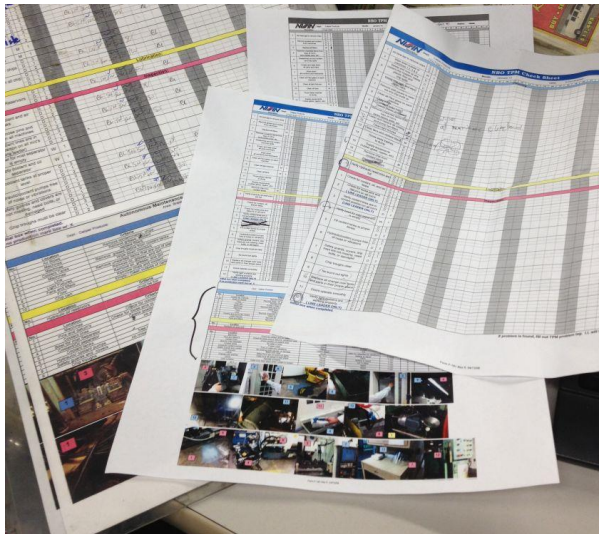
12月、フィンドレーは秋学期が終わった学生達が実家に帰り閑散としていました。クリスマスを家族と過ごすアメリカの学生は、大学とその周辺にはあまり残らないようです。下旬にはいよいよ人気も無くなり、日本とは違いとても静かな年越しでした。

さて、第5回目となる今回のレポートではインターンシップでの作業とアメリカを襲った寒波について紹介したいと思います。

■ Total Productive Maintenance (総合的設備管理)

インターン先では現在TPMと呼ばれるものを編集しています。これは生産ラインなどの設備を管理していくに当たって日常的にしなければならない点検・清掃などの項目を列挙したものです。各項目は必要に応じて頻度が設定されており、3つのシフトがいつ点検を行ったかを記入することができるようになっています。また、このシートには所要時間や点検の方法・箇所などが写真付きで解説されており、必要な事が全て分かるようになっています。

生産ラインの設備が変わっているため新たに写真を撮り置き換えること、これまで私達が生産ラインに関わってきて気が付いたことを書き足してより良いものにすること、の2点を行いました。最終案では切削油槽の底の切粉を定期的に取り除くことやフォークリフトの通行を妨げる物が通路上にないかの点検などの項目が加えられました。



TPMシートの編集作業（左）と実際に設置されたTMPシート（右）

■ 寒波の冬

今年のフィンドレーの冬は例年に比べて非常に冷え込んでいるようです。北米に大寒波が来たことも併せ、1月上旬にはレベル3の大雪警報が出されました。これは緊急車両以外のあらゆる車の通行が禁止されるほどの極めて深刻な警報であり、警報を無視して外出した場合逮捕されることもあるそうです。これにより1月から始まる予定であった春学期は開始を三日遅らせる異例の事態となりました。

寒波の影響で気温の低下も著しく、例年の最低気温 -5°C 程度だったこの時期に -26°C を記録しました。後日フィンドレーで育ったインターン先の上司に訪ねたところ、これは1970年以来の記録的な寒さだったようです。それほど事態になっているということを知らないまま私はキャンパス内まで歩いて郵便物を出そうと外に出たのですが、1分もしないうちに慌てて逃げ帰ることになりました。思えばパーカーのフードの紐を締めて耳と頬を守ったのはこの時が初めてでした。

気温が低く乾燥しているフィンドレーの雪はパウダースノーで、吹けば粉のように飛ぶサラサラとした雪でした。フィンドレー内では深刻な問題は発生していませんでしたが、高速道路に出るとあちこちでスリップによる事故・渋滞が発生していました。数千便の航空機が運休になるなど、あらゆる交通に大きな被害が出ているようです。現地の方が実際に目の前で事故を起こしている様を見て、より一層の注意が必要だと感じました。



除雪されたキャンパス（左） パウダースノーと風が作る風景（右）